

超小型モビリティ「試乗会」及び
第三回「地域と共生する超小型モビリティ勉強会」
議事録

1. 日時

平成 29 年 4 月 12 日（水） 試乗会： 13：00～14：40
デモ： 14：50～15：20
勉強会： 15：50～18：10

2. 場所

トヨタ・メガウェブ

3. 出席者

鎌田 実 東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授
石田東生 筑波大学システム情報系社会工学域 教授
中條芳樹 名古屋大学未来社会創造機構 高齢社会エキスパート
国交省 自動車局（事務局）、都市局、道路局、観光庁
環境省、経産省
自治体（横浜市、さいたま市、東京都）、民間各社 等

4. 試乗及びデモの概要

- ・ コムス（トヨタ車体）、i-ROAD（トヨタ）、New Mobility CONCEPT（日産）、MC-β（ホンダ）、リモノ（リモノ）の 5 車種に試乗した。
- ・ デモでは、車両の小ささを活かした効率的な駐車及び駐車車両のスムーズな追い越しを実演した。

5. 勉強会議題

- ① 第 2 回勉強会における宿題等について（トヨタ・日産・ホンダ）
- ② 駐車場枠サイズ等について（事務局、パーク 24、国土交通省道路局）
- ③ 宅配事業での使用事例の紹介（トヨタ車体）
- ④ 低速車両関係（まちづくりとの関係等）（石田教授）

6. 議事要旨

- ・ 自動車メーカー、事務局、パーク 24、国土交通省道路局、トヨタ車体、石田教授から議題に沿って発表を行い、意見交換を行った。

- ・ 第2回勉強会における宿題に関しては、東京都での使用実態に基づき、幹線道路では 50km/h 以上で走り生活道路ではゆっくり走っている実態が確認され、最高速度 60km/h の超小型モビリティの必要性が共有された。
- ・ 駐車場については、現状の取組み等が報告され、空間を有効に活用する駐車場の必要性は今後増加していく等の意見があった。
- ・ 宅配事業の事例照会においては、原付四輪の最大積載量 30kg は少ない、認定制度は全国展開している事業者に向かない、との指摘があった。
- ・ まちづくりとの関係では、交通行動と幸福度に連関があり人のモビリティを制限すべきではない、日本の貧弱な道路事情を踏まえると人と車が道路を共有するための工夫が必要、との説明があった。
- ・ 次回は、超小型モビリティの市場性や事業性について採り上げるほか、比較的低速の車両についてリモノからの発表等を予定。

以上